

まいづる 農業委員会だより

No.
73

令和5年11月

発行／舞鶴市農業委員会 舞鶴市字北吸1044 TEL 66-1023 FAX 62-9891



～中山城址南より～

由良川は度々氾濫し、民家などに大きな被害を及ぼしてきました。その一方、洪水により肥沃な土砂が農地に堆積し、耕作にはプラスの要素もありました。流域では古くから農業が発達し、今も水稻、茶、万願寺甘とうに代表される園芸作物などが盛んに栽培されています。

令和3年度に国土交通省による由良川緊急治水対策(舞鶴市域)が終了しました。輪中堤整備または宅地かさ上げにより、農地は減少しましたが以前より安心して暮らせる環境が整いました。

また、江戸から明治時代にかけては丹波地方と日本海を結ぶ物流の川として、米、塩、生活物資などを大量に積んだ川船が往来していたそうです。河口を出た日本海では北前船による輸送網に繋がっていました。

次の世代はどう変化して行くのでしょうか？ そんな人の営みなど気にも留めぬように、川は秋空の下、今日も悠然と流れています。(坂本委員)

主な内容

- 会長あいさつ 2・3
- 委員の紹介 2・3
- 大浦パパレモン
プロジェクト 4・5
- 農業者紹介 6
- スマート農業 舞鶴 7
- 農業大学校学生募集等 8

ご挨拶

舞鶴市農業委員会では、7月21日に臨時総会を開催し任期満了に伴う委員の改選が行われ、農業委員19名と農地利用最適化推進委員15名が新しくお世話になることになりました。又、会長として私今田が再任されました。皆様方のお力添えをいただき、精一杯任期を全うさせていただきます所存です。

今期の農業委員、推進委員が重点的に行う取組みは、地域の農業や農地を守る活動としていきます。中でも重点事項としているのは、農地の有効利用です。農地を守り、生かすための取組みが大変重要となります。その為に昨年5月に国で地域の農地利用の将来像を描く「人・農地プラン」を「地域計画」として作成する事が法制化されました。「地域計画」は、農地1筆ごとに将来（5～10年後）の利用者を特定した「目標地図」を柱としたものを集落毎に策定することが求められています。

東地区

舞鶴市農業委員 (R5.7.20～R8.7.19)



佐藤 正之



前田 隆文



池田 三郎



藤村 順一



二谷 敏子



尾上 亮介



林 浩二

東地区

舞鶴市農地利用最適化推進委員 (R5.7.20～R8.7.19)

1区(東大浦):
永岡 重昭2区(西大浦):
森下 善之3区(朝来):
大石 昌雄4区(志楽):
林 喜弘5区(与保呂):
越後 八衛6区(祖母谷・倉梯・新舞鶴等):
安永 憲治

西地区

舞鶴市農地利用最適化推進委員 (R5.7.20～R8.7.19)

9区(四所):
土井 清司10区(高野):
今安 七男也11区(池内):
泉 宜夫

舞鶴市農業委員・農地利用最適化推進委員の紹介

この国の農と食を伝えます。

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が発行する週刊の農業総合専門誌です。

全国農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

週刊 金曜日発行
月700円、年8,400円 (消費税込)

■購読のお申し込みは、農業委員会事務局へ
TEL 0773-66-1023

■発行所 全国農業会議所

今後、一層の人口減少がみこまれる中、農地の集約・維持に向け、将来像を具体化することが各地域に求められています。

農業委員会としましてはそれぞれの集落へ入らせていただき、その計画の話し合いに参加させていただきたいと思っていますので、ご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。

(今田会長)

加佐地区

舞鶴市農業委員

(R5.7.20 ~ R8.7.19)



岡本 厚美



岩崎 俊彰



会長: 今田 壽孝



坂本 武



霜尾 共造



谷口 一郎



日置 義久

西地区

舞鶴市農業委員

(R5.7.20 ~ R8.7.19)



副会長: 嵯峨根 秀樹



森川 勝文



辻 とよ子



内藤 義高



櫻井 成親

加佐地区

舞鶴市農地利用最適化推進委員

(R5.7.20 ~ R8.7.19)



12区(岡田上): 嵯峨 隆幸



13区(岡田中): 小嶋 盛治



14区(岡田下): 野間 久一



15区(八雲・由良川左岸): 小谷 正志



16区(八雲・由良川右岸): 澤田 良郎



17区(神崎): 多田 勝弥



大浦パパレモンプロジェクトメンバー

舞鶴市の大浦地域でレモン栽培を始めたグループの活動について、紹介させていただきます。

大浦パパレモンプロジェクト

「親が子供に残したい地域農業」をコンセプトに、2022年に「大浦パパレモン」がスタートしました。

大浦在住の農家、漁業者、自営業者、会社員といった、職種の異なったメンバーで構成されています。

レモン栽培は、寒さや霜に弱いいため、年間平均気温は15℃以上が必要とされています。冬の海風は暖かく海辺は霜が降りにくいことから佐波賀地区で、2023年3月に苗木の定植が始まりました。

大浦パパレモンプロジェクトは単純にレモンを栽培して収穫するだけでなく、地域の課題を資源に変え持続可能な地域農業を目指して活動されています。

高齢化、後継者不在による遊休農地の増加は、人里と有害鳥獣の距離を縮め農作物の被害を更に深刻化させています。これらの遊休農地を、レモン畑に再生することにより、他の農作物の被害を軽減させ、里山の景観も改善されます。



大浦小学校児童共同定植作業①



竹をチップにする作業の様子

また地域の放棄竹林をチップ化し圃場に敷詰めることで保温・雑草抑制・乳酸発酵・微生物等による土壌改良にもなります。

舞鶴ではカキを始め貝類の養殖が行われており、この貝殻を粉碎し土壌に混ぜ込むことで有機肥料として有効利用しています。

皮まで安心して食べられるレモンを生産する為、有機肥料を使用し、なるべく農薬は使わない。使用する場合は、化学農薬は使用せず、有機JAS登録の植物由来の物を使用するなど「食の安心安全」にこだわられています。

舞鶴市のふるさと納税型クラウドファンディングを利用し、集まった寄付金で、草刈機や竹をチップにする機械などを購入されるなど、今の若い世代ならではの発想で活動されています。

また、生産したレモンを使って、独自の商品開発を計画されており、6次産業化を図ることで、安心安全な付加価値の高い商品が生まれ、地域経済への波及効果も期待できます。

今回レモンの苗木定植された圃場を含めた広範囲農地を囲む、シカよけ防除柵が設置されたことでシカ・イノシシなどの被害が無くなり、私も同じ地域に住む



大浦小学校児童共同定植作業②

者としてとても感謝しています。

今後この活動が広がっていくことを期待しながら地域の者として協力し、見守って行きたいと思います。

(佐藤委員)

農業者紹介 出会い・楽しみ・絆

(大君) 山下宏之さんご夫婦とそのお孫さん



地元地区では、高齢により農業をされなくなった家が多くなっています。私は来年退職を迎えるにあたり老後の楽しみを考えていた時、近所の方から農地を利用してもらえないかと話がありました。そこで何かできることがないか色々聞いていたところ「万願寺甘とう」に出会いました。まずはハウスを探すところから始まり、撤去したいと言われる方を紹介して

頂き、自分で解体し2棟のハウスを移設しました。

今迄は稲作のみで野菜を栽培したことはありませんでしたが、親戚に元農協職員の方がおられ色々教えてもらい、農協や府の農業改良普及センターの指導を受け見よう見まねで栽培を始めました。

定植後あんなに小さかった苗が世話をするとに大きくなり、立派な実を結んだときにはとても感動しました。

また、自分で作った野菜を出荷し消費者に食べてもらうと思うと、とてもやり甲斐を感じています。

今年は猛暑が続き規格外の実が多く、病気や害虫に悩まされながらも何とか少しづつ収穫できています。

妻には退職してからでも良いのではないかとわれ「一人で頑張る」と意地を張っていましたが、やはり一人での作業は無理とわかり、今は妻や近くに越してきた娘夫婦にも手伝ってもらい、とても助かっています。

万願寺甘とうの栽培を通し、家族の絆もより一層深くなっています。

又、何かに打ち込むことがあると言うことに幸せを感じています。

今後も健康で農業を永く続けられるよう妻と二人三脚で無理をせずに頑張っていきたいと思っています。

(土井委員)

農用地の借受希望者を募集します!

京都府農地中間管理機構では、農地の借受を希望する方の募集を行っております。募集区域は市街化区域の農用地を除く農地で現在の募集区域は機構ホームページ上に掲載しております。

※詳しくは京都府農業会議または市役所農林水産振興課総務係までお問い合わせください。

問い合わせ先

- 一般社団法人京都府農業会議(京都府農地中間管理機構)
TEL: 075-417-6868
ホームページURL: <https://www.agr-k.or.jp/~kyoto-j/farmbank/>
- 舞鶴市役所農林水産振興課総務係
TEL: 0773-66-1023





2022年度農地利用状況調査での実証実験の集合写真 丸山周辺
中央：舞鶴高専の西村氏 他：農業委員、農業委員会事務局職員

スマート農業 舞鶴

ドローンによる農地利用状況

調査の実証実験 その1

このコラムでは舞鶴市で実施されている、新たな技術を取り入れた農業について報告・紹介します。近年、農林水産省は、ロボット技術やICTを活用し超省力化、高品質生産を実現する新たな農業の実現のためにスマート農業を推奨して

います。舞鶴市では地域の事情にあったスマート農業の取り組みを始めています。

舞鶴市農業委員会では2020年からドローンの活用に取り組んでいます。初年度はドローンの農業活用の可能性を企業の模擬飛行から探りました。2021年からは舞鶴高専と連携して、農地利用状況調査でのドローン活用の実証実験を開始しました。

ドローンから撮影した映像で農地の状況が判断できるかを確かめるために、実証実験を実施しました。実施前に撮影の高さを決めるために地上30～100mで撮影。植生や地表面を写真の映像で状況が判断できるのかを農業委員と事務局職員で検証しました。結果、広範囲が撮影でき撮影枚数を減らすことができる100mからの撮影を採用しました。話し合いで真上からの映像では植生が判断しにくいとの意見から、動画も同時に撮影することにしました。撮影した映像から判断した農地の状況と同年の目視での判断を比べた結果、ほぼ判断は同様であることが分かり、ドローン活用の可能性があることを確認することができました。一方、今後検討が必要な問題点も明らかになりました。撮影の準備・撮影後の検証の時間を踏まえて、これまでの目視調査との効率の良さの検討やすべての調査対



上空100メートルからの撮影

上空70メートルからの撮影

象地域でドローン調査を導入するかなどです。検討方法として、調査場所によって目視調査とドローン調査を使い分ける方法を検証することになりました。

2022年の実証実験では、撮影対象地域を山間部など、目視調査が難しい場所でのドローン調査の可能性を検証しました。(その2につづく)

(尾上委員)

京都府立農業大学校

学生募集

京都府立農業大学校では、
府内で農業に従事したい意欲ある
学生を募集しています。



	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期）
願書受付期間	令和5年12月 1日（金） ～12月13日（水）	令和6年1月19日（金） ～1月31日（水）
試 験 日	令和6年1月12日（金） 午前9時20分～	令和6年2月16日（金） 午前9時20分～
試 験 場 所	京都府立農業大学校（綾部市位田町検前30）	

詳しくは、
農業大学校へ直接
お問い合わせ下さい。

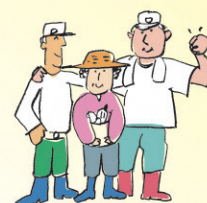
電 話

**0773-
48-0321**

農業者年金 で安心、豊かな老後を！

～農業者年金に加入しましょう～

- 農業者なら広く加入OK
- 保険料は自由に設定OK
- 税制上の優遇措置あり
- 農業の担い手には手厚い政策支援
- 少子高齢時代に強い年金
- 終身年金で80歳まで保証



農業者年金の内容やご相談については、最寄りの農業委員会かJAまたは
農業者年金基金(TEL:03-3502-3199)にお問い合わせください。

（農業者年金加入推進部長 霜尾委員）

編集後記

■今年の夏は異常とも云える熱波で、外に出るのもおっくうなほどの暑さに地球規模での温暖化を実感する夏となりました。その影響で少なからず農業への打撃となって現れています。

■今、一度「地球温暖化」への懸念を新たにし、身の回りからの取組姿勢が重要となっています。

■しかし、暑い夏も終わり、晩秋の装いとなり、露でしとどに濡れる変化もあります。

■今期初めての活動で担当も新規となり、不安もありますが、身近な紙面を届け、農業の継続に繋がる、一助になればと思います。

■広報委員一丸となり、進めてまいります。
（野間委員）

● 広報委員 ●

委員長	坂本 武
副委員長	野間 久一
委員	今安 七男也
委員	尾上 亮介
委員	佐藤 正之
委員	土井 清司